

# 市場統合を支援し産地の競争力の強化を実現

## ○高知県田ノ浦漁港の事例

### 【主な課題】

- ・漁協合併や市場統合が進まず、各漁協単位で市場運営  
よって取扱量・種類が少、出荷量変動が大  
⇒流通面において様々な影響  
(魚価の低迷、品質管理の不備、品揃え・出荷形態が  
限定的、販路が限定的など)

### 【事業・取り組み】

- ・漁港の陸揚げ機能の集約化  
(22漁港で陸揚げ → 田ノ浦漁港に一本化)  
(取扱金額50億円規模の新市場誕生)  
(漁協合併・市場統合を支援 漁協数20 → 3)
- ・衛生管理型の漁港整備  
田ノ浦地区特定漁港漁場整備事業(H14~H22)  
(衛生管理型係留施設、道路、清浄海水導入施設等の整備)

### 【事業効果】

#### ○産地市場の機能向上

- ・機能の集約化、充実による作業時間の短縮  
鮮魚の陸揚げから出荷までの所要時間 1.5h ⇒ 0.75h  
(集約前の近隣大島漁港との比較)
- ・市場統合・衛生管理による生産額の向上  
市場集約化による産地単価 388円/kg ⇒ 420円/kgへ  
(県内産地市場と集約前の近隣大島漁港との比較)

#### ○出荷形態の多様化(蓄養により活魚出荷が可能に)

- 鮮魚から活魚への転換による単価上昇への期待
- ☆新規の仲買参入による新たな販路拡大
  - ◎仲買人等の新規参入(2社)
  - ◎関西・関東方面の出荷の増加
- ☆水産加工品の出荷増で消費者ニーズに対応  
水産加工場整備による加工品(すりみ等)の販売
  - ◎直販所等における地産地消の推進
  - ◎地域活性化、水産振興、雇用創出

### 田ノ浦漁港全景と主な衛生管理施設

